

(1) 平成 30 年度事業効果検証について

基本目標 への評価	① (○) アクションプランに基づく事業が有効であった。 ② () アクションプランに基づく事業が有効とは言えなかった。 ↑ 該当する箇所に○を記載
意見	7～8割の達成状況ではあるが、最終目標値に到達するには、相当の努力が必要。誰に来てもらいたいかというところをもう少しフォーカスすべき。目標値の根拠に対する意見が出たが、正確さをどこかで検証する必要がある。

個別目標 への評価		①（ ○ ）アクションプランに基づく事業が有効であった。 ②（ ）アクションプランに基づく事業が有効とは言えなかった。 ↑ 該当する箇所に○を記載
意見	A 観光地としての 受入基盤整備	国内の旅行者は減少しているがインバウンド客は増加している。日本の人口減少が進む中で海外への旅行は増えているので、将来の会津美里町を考えれば、インバウンド対策は重要である。
	B 着地型観光の確 立	歴史文化事業等への町外参加者数は、すでに目標値を超えており、各事業が功を奏したものとする。会津本郷焼事業組合の売上額については、指標値の見直しも必要。
	C 観光まちづくり の推進	観光ガイドの回数については、目標値を超えているが、ポータルサイトのアクセスについては、情報発信に工夫が必要であり、早急な観光プラットフォームの構築を望む。
	D 地域連携による 観光事業の拡大	Wi-Fi の利用が増えてきている部分は良い傾向である。海外からのアクセスが伸びていない。現在のインバウンド需要が高まってきている、この機会を逃さず町としても対策を講じるべき。英文の動態情報が必要である。

(2) 平成 31 (令和元) 年度事業進捗状況について

A 観光地としての受け入れ基盤の整備

○温泉宿泊施設の利活用処分方針に基づく検討

温泉施設等の利活用の方法について、住民説明会や温泉利活用処分等検討委員会を開催しながら検討を進める。

→ 6 月 2 9 日 (土) 新鶴生涯学習センター

会津美里町温泉施設利活用処分方針に関する住民説明会

7 月 1 1 日 (水) 役場本庁舎

第 1 回会津美里町温泉施設利活用処分等検討委員会

8 月 2 0 日 (火)・2 1 (水) 群馬県渋川市

温泉施設民間売却視察研修

9 月 2 8 日 (土) 本郷生涯学習センター

会津美里町温泉施設利活用処分方針に関する住民説明会

○空き店舗等のデータベース整備

「会津美里町住まいるバンク」の継続運用

→登録物件数 4 6 件 (9 月末現在) 累計 (内訳 空家 3 7 件 空地 9 件)

利用希望登録者数 7 7 名 (9 月末現在) 戸建ての希望者が多い。

○空き店舗等活用の助成制度運用

会津美里町活力ある商店街等支援事業補助制度の実施

→高田地域 1 件 (昨年から継続)

○空き店舗等の活用促進に向けた検討調査の実施

まちづくり政策課と連携しながら、必要に応じて所有者調査及び意向調査を実施する。

→現時点では調査は実施していない。意向調査を実施しても返答がないため、調査方法を含めて検討中。

○特定創業支援事業の実施

あいづしんくみ創業塾の開催予定

創業支援セミナーの開催

→あいづしんくみ創業塾

令和元年 5 月 2 3 日～6 月 2 7 日 計 6 回開催

創業支援セミナーの開催状況 (町商工会)

令和元年 9 月 2 2 日開催 9 名参加

○創業支援の助成制度等の実施

会津美里町創業等支援事業補助制度の実施

創業者等を対象とした中小企業振興資金融資制度及び利子補給制度の実施

→・会津美里町創業等支援事業補助制度 2件利用（持ち帰りパン店、理容店）

・創業者等を対象とした中小企業振興資金融資制度及び利子補給制度の実施

中小企業振興資金融資制度 58件（9月末現在） 利用率47.2%

利子補給制度 前期 202件

○民泊制度運営システム導入による民泊届出状況の把握

平成30年6月15日から施行された住宅宿泊事業法について、窓口である県と連携しながら町内の民泊届出状況を掴んでいく。（平成31年1月末現在町内届出0件）

→町内届出状況 0件（10月9日現在）

（参考） 県 内 52件（うち2件が廃止）

会津管内 24件（うち2件が廃止）

○「観光指さしナビ」の更新と機能拡充（多言語化）

平成24年度に作成した会津美里町の「観光指さしナビ」の内容を更新し、訪日観光客にも対応できるよう機能拡充し、新たに4言語「英語・簡体語・繁体語・タイ語」を加え、音声によるガイドサービスを行なっていく。

→令和元年9月26日委託業者と契約締結。

○レンタサイクルの追加

新鶴地域の新たな観光拠点となる「新鶴ワイナリー」に隣接する「ふるさと観光物産館」に電動アシスト付きのレンタサイクルを導入する。（電動アシスト自転車1台・普通自転車1台）

→令和元年7月30日に電動アシスト付自転車をふるさと観光物産館に納品。合わせて、普通自転車1台を高田インフォメーションセンターから移動し2台で稼働している。利用件数2件（9月末現在）

○インバウンド研修会の実施

外国人観光客の受け入れ体勢を整備するため、国内のインバウンド動向の基礎知識や接客方法に関する研修会を自治体職員や地域の事業者等を対象に実施し、地域の受け入れ能力向上を図る。

→令和元年11月下旬実施予定

B 着地型観光の確立

○ふるさと便の継続販売

作成した WEB カタログにより販売を継続展開する。

→体験型・企画型・定期型・特撰型の4種類の商品について、WEB でカタログ化をして、ポータルサイト「ミサトノ」に掲載している。商品カテゴリーを、米・肉/肉加工品・酒/ワイン・漬物/味噌/おやつ・農産物加工品・農産物・体験/工芸品の7つに分類。売れ筋品目としては、「会津産コシヒカリ」となっているが、見せ方が不十分で認知度が低いため、今後見直しが必要。

○旅行エージェント訪問の拡充

首都圏及び近県（新潟県新潟市を予定）の旅行エージェント訪問を継続し、新たに西日本（愛知県名古屋市を予定）から本町への誘客に向けて、観光素材を売り込み、旅行商品造成につなげていく。

→・8月30日に首都圏の旅行会社3社4事業部を訪問し、首都圏から本町へ誘客を促進するため、旅行商品造成に向けて働きかけを行い、観光素材の売り込みを行なった。主として「新鶴ワイナリー」「会津本郷焼」「左下り観音」を中心として、来春に向けて「桜」も売り込みを行った。

新鶴ワイナリーは新たな観光コンテンツとなるので、採用される可能性が高い。その他、「向羽黒山城跡」や「天国茶屋」など興味を示した。

《訪問先エージェント》

- ・クラブツーリズム（首都圏バス旅行センター/第2国内旅行センター）
- ・読売旅行
- ・はとバス

・9月24日に愛知県名古屋市内の旅行会社3社4事業部を訪問し、西日本から本町へ誘客を促進するため、旅行商品造成に向けて働きかけを行い、観光素材のPRを行なった。今回初めて名古屋での売り込みを行なったが、知名度がないため大型観光地（会津若松市・大内宿）などとの組み合わせによる継続的なPRが必要。名古屋でも新鶴ワイナリーへの興味が高かった。

《訪問先エージェント》

- ・クラブツーリズム（名古屋テーマ旅行センター/名古屋国内旅行センター）
- ・阪急交通社企画旅行事業本部
- ・JTBメディアリターリング中部事業部

・10月10日 新潟市内エージェント訪問

○天海さんシンポジウムの開催

じげんプラザ落成記念事業として、ゲストを招き記念講演及びパネルディスカッションを実施する。

→11月16日（土）13時よりじげんプラザにて開催。

C 観光まちづくりの推進

・DMO設立事業計画の検討

平成30年度に総務省の外部専門家招聘事業を活用し、近畿大学の高橋一夫教授からアドバイスをいただいて会津美里町におけるDMO設立事業計画（案）を途中まで作成してきた。今後財源の調整及び担い手の選定を行い、候補法人登録に向けて準備を進めていく。

→今後、候補事業者との会議を実施予定。

・あいづみさと観光百人衆の会員拡大及び人材育成の継続実施

これまであいづみさと観光百人衆の会員募集及び人材育成に取り組んだので、次年度においては、まちづくり政策課の事業である「まちなか再生事業」と連携し、会員の拡大及び前年度の内容を発展させた人材育成（セミナー・ワークショップの開催）に取り組み、本格的に情報発信していく。

→11月6日（水）18時30分～20時 役場本庁舎2階大会議室

「会津美里町魅力づくり勉強会」の開催。

・異なる地域特性を結びつけるモデル創出事業

政策財政課の事業。前年度実施したコアメンバーミーティングで出された成果をさらに深化させ、3つの地域の特性を活かしながら、若い世代がこの地域に誇りを持って「ここに暮らしたい」と思うことができ、将来的には創業や雇用に繋がるようなモデルケースを創出していく。

→本郷地域で空き店舗を活用した事業を考えているコアメンバーの支援として、8月4日のせと市で、活用予定の空き店舗を実験的に開店させた。店舗ではコアメンバーが募ったプレイヤーが出店し、新鶴産ワイン等の飲食物の提供や、会津本郷焼を使ったレジンアクセサリーのワークショップ等が行われた。

今後、町民を対象とした勉強会の開催やプロモーションサイトの構築を行っていく。

・田舎暮らし体験ツアー事業

政策財政課の事業。移住・田舎暮らし専門の冊子「TURNS」とタイアップした移住体験ツアーを実施。東京エフエムと連携し、首都圏のラジオ番組で本町用のコーナーを設け、首都圏移住潜在層向けのPRを行う。体験ツアーは1泊2日で実施する。

→9月14日・15日の2日間、新鶴ワイナリーを中心に、移住体験ツアーを実施。

首都圏から8名が参加し、サイクリングや坐禅体験、梅ジャムワークショップなど、田舎暮らしに興味を持ってもらうようなコンテンツを体験してもらい、本町の魅力をPRした。

D 地域連携による観光事業の拡大

・ デジタル DMO による広域連携事業の展開

これまでの取組を継続し、デジタル DMO 事業の運営を行うとともに、着地型観光商品（ツアー）や、飲食店、宿などの予約等については、OTA（Online Travel Agent）サイトとデジタル DMO を連携させるスキームとして、2020 年度から OTA サイトでの予約が可能となるよう準備を進め、あわせて広告経費の縮減など事業費の見直しを行い、事業の自立性を高める。また、現地受け入れ体制の整備等を進めることで、より効果的なインバウンド対応を行う。

→ターゲット国に対し、SNS や検索エンジンにバナー広告を実施。

今回のターゲット国は、台湾を軸に、その他タイ、オーストラリア、フランスに向けて定常プロモーションを実施。

・ インバウンド誘致に向けた旅行会社への PR

引き続き、首都圏等のランドオペレーターを訪問し、訪日外国人旅行客を誘致するため、外国人が好みそうな素材を売り込み、旅行商品造成につなげる。

→10月3日首都圏ランドオペレーター訪問。

No.	取り組むべき戦略プログラム	左記のプログラムを踏まえて取り組むべき具体的な事業
1	1.既存イベントを活かした観光の拡充 (史跡・名所・施設等を含む)	町内には、歴史的かつ地域性が豊富な魅力的な祭りなどのイベントや史跡名所が多く存在することから、新たに何かというより、それらをどう活用しPRしていくかを議論していくことが、実現性の高い、さらに継続性のある取り組みができると考える。 他地域の人々を呼び込むことを第一にするのではなく、地域の魅力を向上させ、他地域の人々が来町したくなるような取り組みをすべきと考える。
2	2.まちなか観光の構築	観光客の目線で見ると、それぞれの駅や観光地のトイレや道路脇の花壇、駐車場、町並み等、きちんと整備して、いつでも美しい「会津美里町」であってほしいと思う。 商店街にも、華やかさや活気がほしいところだが、「カフェ」とか「マルシェ」とか一時的なものではなく、継続できる事業でなければいけないので、難しいところではあるが、実行できると良いと思う。 私自身、自分達のまちについて、もっと見て、聞いて、知って、「おもてなし」できるよう学習しなければと感じている。
3	3.宿泊拠点の整備	観光客が宿泊することによる経済効果。本町は、近隣市町村と比較した場合に宿泊するところあまりにも少ない。長時間の滞在型観光で、歴史、文化、食、体験と様々な観光を提供できると考える。 また、他町村にはない観光を構築(こだわり・差別化・おもてなし)していき、誘客を図る。観光産業の育成、充実(宿泊業・お土産業・交通運搬業・飲食業)を図ることによっての雇用、経済が伴い、町全体が潤うことになる。
4	4.立ち寄り拠点の整備	新鶴IC周辺に町の物産をおいた「道の駅」のような施設をつくる。その施設内に町内の農産物、本郷焼などの伝統工芸品、新鶴ワインなどの特産品を揃える。大型バスの駐車場を整備することで、観光バスの立ち寄りなどが増えて町内の経済の活性化が期待できる。また、集客を増やすために、季節のイベントや町の観光情報の案内などによりリピーターを増やすようにする。
5	7.グリーンツーリズムの育成	民泊を利用した体験型の修学旅行、7月12日の「御田植祭」への参加も行う。 本町の子供の減少とまつりの継続、農業体験等をアピールする。 只見町や金山町の取り組みを参考にすると良い。
6	6.ものづくり体験ツアーのパッケージ化 7.グリーンツーリズムの育成 8.歴史文化ツーリズムのパッケージ化 9.スポーツ・ヘルス・ツーリズムの育成 10.会津美里町の観光の推進体制の構築 ↓ これらを一括して一つとして選択	とにかくDMOだ。 ①観光商品を考える(マーケティングを含め) ②売ってみる。 ③商品の課題を解決する。 ①の部分がプログラム6・7・8・9に相当 ①②③がプログラムの10に相当 これをやらなければ、観光振興計画は、計画倒れの事業であったと言わざるを得ない。

【参考】取り組むべき戦略プログラム

- 1.既存イベントを活かした観光の拡充
- 2.まちなか観光の構築
- 3.宿泊拠点の整備
- 4.立ち寄り拠点の整備
- 5.二次交通網の拡充
- 6.ものづくり体験ツアーのパッケージ化
- 7.グリーンツーリズムの育成
- 8.歴史文化ツーリズムのパッケージ化
- 9.スポーツ・ヘルス・ツーリズムの育成

- 10.会津美里町の観光の推進体制の構築
- 11.いきがい観光の推進
- 12.Uターン促進及び連携推進
- 13.町の観光を担う人材の育成
- 14.ターゲットに応じた情報発信・プロモーション
- 15.広域連携による観光パッケージの拡大
- 16.友好姉妹都市等の交流観光の推進
- 17.インバウンド観光の充実